



波乱の幕開けとなった 2008年

大城 敏彦 議員

自己責任にされては たまらない、政治の 責任は何処に

問 それは、「この現状を真正面から受け止め、自立・自己責任の覚悟を互いに共

問 市長の「私たちを取り巻く状況の厳しき、次への展望の見えにくさを痛感せざるを得ない」という認識は、市政運営の責任者として当然だが、今日の状況と以降すすむであろう事態をどれだけ深刻に受け止めているのか疑問だ。

有して」と言われているが、今日の現状は受け止めたくなくとも降りかかるもので、自立・自己責任の範ちゅうでは、どうにもならない事態が進行している事だ。自己責任の範ちゅうでどうかなるのであれば、政治は要らないということになりはしないか。

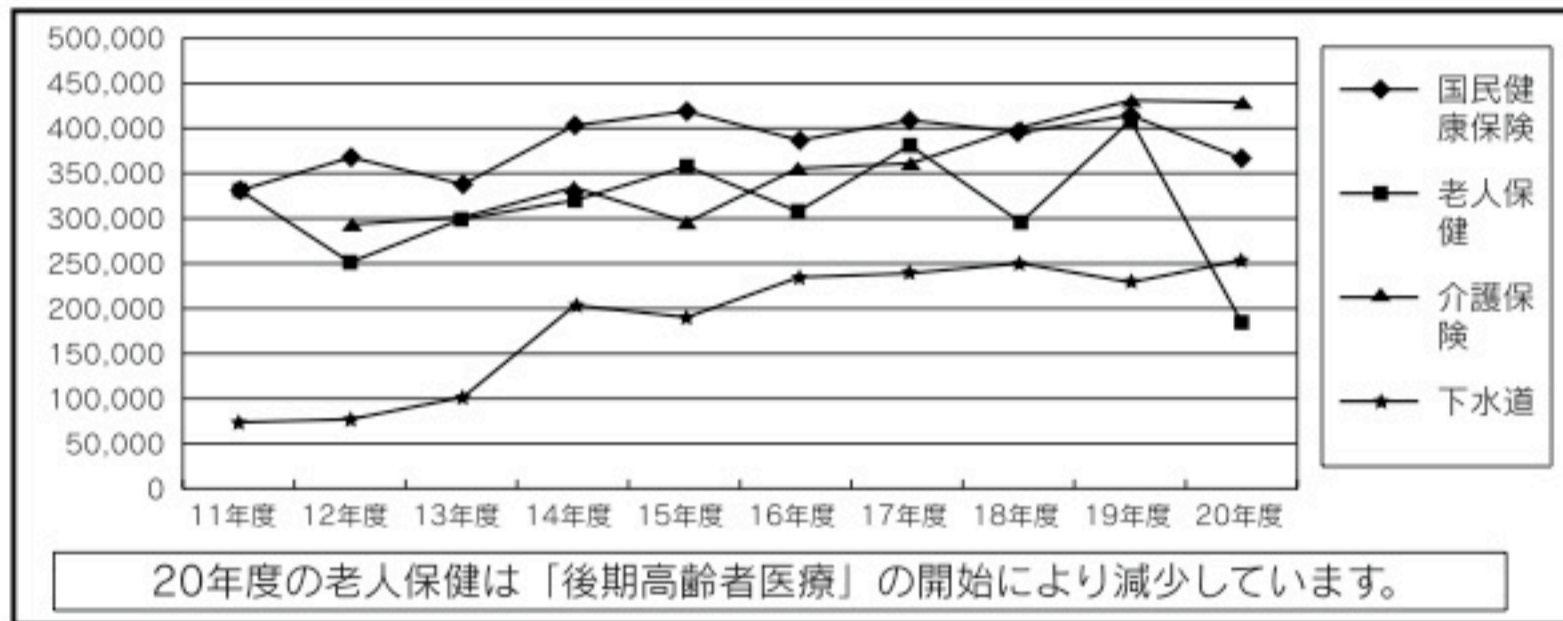
今こそ暮らしを守る 市政運営への転換を

問 市長がいつも言っているように、今日の市の財政状況の中、あれもこれもではなく、あれかこれかとなれば、まさに今、莫大な財政をつぎ込み、一握りの業者を潤す大型公共事業優先より、小さな業者でも直接受注できるような事業（生活道路の整備など）のほうがかえって地域の活性化には効果的ではないか。

市長 生活道路を無視しているわけではないが、将来を見通すということも私の立場では

大事なことではないかと思っている。
日本の経済の混乱が、わが筑後市の中にいろんな意味で波及しているとの指摘はその通りで、生活が本当に厳しいという一点は、市民との接触の中で感じており、何とかしなければとの思いもあるが、筑後市としての限界もあると思っ

特別会計への繰り出し推移 (単位: 千円)



協働の実践の場としての子育て支援拠点 施設の運営は

矢加部 茂晴 議員

問 市長が市民との協働の場と位置づけている子育て支援拠点施設の運営は。

市長 これまで大変熱心な

市民の方の活動があり、これからもそういう方々と一緒に取り組んでいきながら、地域全体で子供たちを育てていく方向で成功させたい。

福祉事務所長 土日の開館の声も多い。土曜日開館を実施し週6日開館の方向で、今準備を進めている。

子育てサロンの地域展開に行政は力を尽くしたのか

問 子育てサロン会の皆さんの尽力もあり、現在地域の子育てサロンはこの3年間で7カ所の設置に至っている。ところが今月初めに「地域子育てサロンの存続について」という文書を行政に出されている。市の重要施策は市主導で実施すべ

きと思うので今月をもって一旦休止させていただきたいとの趣旨だ。文書の一文には、市側の意識の低さには、市側の意識の低さから悩みや限界を感じながらの状態が続くともある。サポートは十分できていたのか。

市長 サロン会の皆さんと先日意見交換をした。新しい子育て支援拠点施設をつくる時期でもあり、今後ともぜひ力を貸していただきたいという方向で決まった。

問 既存の子育て支援センターにはないフリースペースが新施設に新しく設けられる。子育ての悩みをもち相談をしたいという人も来られるはずだ。ここには有償ボランティアではなく保育士など責任のある職員を配置すべきではないか。

市民生活部長 フリースペースこそが自分の悩みをきちんと話せる場所だと思っている。少なくともその中には、正規か嘱託かは検討中だが、職員を配置したい。



7月1日オープンに向けて建築中の子育て支援拠点施設